

第24回全国障害者スポーツ大会のメダルを掲げ、笑顔を見せる愛加さん



諦めない前向きな気持ちの結果を生み出す



さ さ き あい か
佐々木 愛加さん (25歳)
田園パーク在住

金ヶ崎中学校、水沢高等学校、日本航空大学校を経て、アイベックスエアラインズに入社。整備士として働いていた2022年5月に新型コロナウイルスワクチンを接種後、左半身が動かなくなる。その後、岩手医大附属病院に転院し、懸命のリハビリにより第24回全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く障スポ」に出場し、2種目で入賞を果たした。

「麻痺はよくならないかもしれないけれど、体の使い方を覚えることで、実力を発揮することができる」と話す愛加さん。22歳の時に職場の集団接種で新型コロナウイルスワクチンを接種後、左半身が動かなくなった。手術や治療、リハビリを繰り返した時期を乗り越えて、現在は仕事やスポーツに取り組めるまで回復した。

今年の春過ぎから第27回岩手県障害者スポーツ大会に向け陸上競技を開始。「出場を決めたときには50m走と100m走を選べた。50mであれば走り切れる自信もあったけど、すぐに終わっちゃう。それなら走り切れないかもしれないけど、自分の出来るところまで頑張ってみよう」と100m走を選択。県大会では実力を発揮し、見事優勝を果たした。また、闘病生活中によくスケッチブックに絵を描いていたことから、同大会のプログラムデザインに応募。「挑戦と感謝と共に」と題した作品は最優秀賞に輝き、大会プログラムの表紙デザインに採用された。

10月に滋賀県で行われた第24回全国障害者スポーツ大会ではジャベリックスロー(※)と100mの2種目に出場し、2位に輝いた。愛加さんの治療やリハビリ、練習を見守ってきた母の真由美さんは、「本当に頑張ったと思う。医療関係者の方々にも深く感謝したい」と話す。現在は陸上のほか、脳性まひの選手が参加する「CPサッカー」や水泳にも参加し、精力的に活動している。

※ジャベリックスロー・・・ターボジャブを投げた距離を競う競技

広報日記



11月は弟の結婚式と祖父の訃報が同じ日に重なるという人生でも忘れられない出来事が起きた。いろいろな人達との出会いや経験が財産になると改めて感じるそんな一日だった。

今年も残すところあとわずか。予報では大雪が降る見込みであり、広報でもお知らせしている除雪車が活躍するだろうか。外での活動が出来ないときは、図書館で本を借りて読んでみるのも良いかもしれない。今年インフルエンザが猛威をふるい、体調不良の方も多くなってきた。皆様も体調管理にはお気を付けてください。(千葉)

11月30日現在		※()内は前月比	
人口と世帯			
人口	15,087人	(+10)	
男	7,789人	(△2)	
女	7,298人	(+12)	
世帯数	6,667世帯	(+19)	